

【山代街道物見遊山外伝//サイクリング特区にしき川流域】

…両輪インフラ:「アクセスルート」と「観光用トレイル」のことで、維持管理の「スーパー先達&観光メンテナンス」がハンドルに相当…

山のみち地域づくり交付金事業
林道 大朝・鹿野線
岩国市錦町宇佐郷地内林道開設工事現場状況

2019年3月11日撮影

2019年4月25日撮影

Dummy

《両輪インフラ・メンテナンス》

昭和47年の日本列島改造論後の「箱モノ行政」には、負のイメージがあるものの、国土強靱化には必要な考え方です。それでも自然とのバランスを十分に意識しなければ、美しい日本は護れません。その意味でもインフラ整備は社会基盤として重要で、さらにそのマルチ効果も見逃せません。治山事業に携わる会社がその地域に存在することが、機材や人材の確保につながり、実はガソリンスタンドの維持にも寄与しています。

話を錦川にフォーカスすると、錦帯橋の周期的な架け替えは技術伝承・人材育成のためにも必要ですが、それだけでなく、そのノウハウを他の建造物への利活用や、部材確保の森林保全も含めた、営みのサイクルを作り、それらも観光資源にするぐらいの構想があっても良いと思います。

もう少し話を広げるなら、錦帯橋が流失した昭和25年のキジャ台風で、錦川沿いの国道が通行困難になり、阿品弥山から続く尾根道を辿って物資調達に向かったと向峠に住む古老が語っていました。似たような話は最近の豪雨被害や地震災害でも聞かれ、最新技術で作った道は、地形に逆らった箇所も含まれ案外脆く、人力で作った昔の峠道の方が意外と残っていて、それで命を繋いだと。。

四国・九州も望める「羅漢山」は、南斜面に湿地帯を有する特異な地形で、宇佐川、本郷川、横道川の三方向からアプローチできますが、何れも女性ドライバーからは敬遠される酷道です。また、北側の生山峠を通る津和野街道や山上集落を結ぶ山道の一部が「中国自然歩道」に流用されていますが、それ以外は廃道と化しています。つまり、観光資源としての羅漢高原へのアプローチのための道路整備と、地域資源としての昔道の道普請は、同時並行で進める必要があると言うことを、「山口むしの会」との意見交換で再認識したところです。

そして河川争奪地形もある風光明媚なこのエリアは、地殻変動や浸食作用の現場で、昔道はある程度安定した場所に残っており、スーパー林道の計画ルートにはかなり険しい箇所もあって、その違いが鮮明です。しかし、両輪インフラにとって定期的なトレイルメンテナンスのための人材確保は共通の課題です。